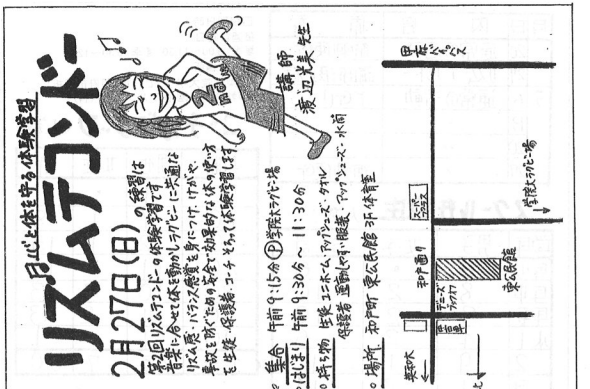
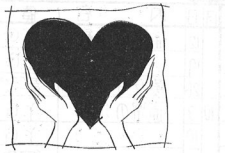


昨年も渡辺先生に来ていただきましたが、今年もまたリズムテコンドーの指導を計画しました。身のこなし、リズム感等々ラグビーにも大切な共通した技術を学べると思います。

ボランティア・NPOフォーラム2011 開催のご案内

テーマ「はじめよう ボランティア！
つなげよう みんなのおもい！」
～みんなにやさしいバリアフリー社会をめざして～



時間	内容
9:30	オープニングアトラクション ご挨拶（山梨県福祉センターの皆さん）
10:00	展示活動 （1）活動者・実践発表 （2）ボランティア・NPOの活動紹介月間ポスター個所入賞者発表
10:30	ワークショップ 手話コース（手話サークルおゆみの皆さん）
10:40	ボランティア・NPOフォーラム テーマ「はじめよう ボランティア！ つなげよう みんなのおもい！ みんなにやさしいバリアフリー社会をめざして」 今、私たちの社会は経済的ゆとりはなく、ボランティア・NPOの活動を取り巻く社会の仕組みも大きな変革期を迎えています。しかし、どのような変化の中でも大切にしたい人間尊厳の土「たがいを生きる」という考えで可能ないろいろ力、ボランティア・NPOの活動精神の土台とも言こと、様々な制度的・精神的なバリア（障壁）を乗り越え、みんなにやさしいバリアフリー社会づくりについて考えたいと思います。 （ゲスト） 笛吹高校2年生（青少年ボランティアサークル甲斐展開・代表） 小林優介さん（山梨県ろう至活の会ステップアップ・会長） 望月大樹さん（ウェアラブルビースクール・代表、山梨県ボランティア指定・運営委員長） （ファシリテーター） 川崎博也さん（株式会社エフエム甲府・常務取締役）
12:00	表れ払い役所広場
15:50	閉会

【食の広場（屋台）】11:30～15:00
会場：2号駐車場西側
ボランティア団体による手作りの屋台でお腹もお満たに！
お好み焼き、焼きそば、焼き鳥、フルーツ盛、パングラムへ、ちらし寿司、郷土コーナー

【マッサージサービスコーナー】11:00～15:00
会場：2号駐車場西側
山梨県視覚障害者福祉協会鍼灸部の皆さん（指定業務者）によるマッサージの無料サービス

【ボランティア・NPO広場】
○ボランティア・NPO活動展示（12:00～15:00）
会場：1階ロビー前
内容：ボランティア・NPOの活動紹介・体験コーナー

○ボランティア・NPO室（13:00～15:00）
会場：1階ホール
内容：現在ボランティア・NPOで活動している人も、これから活動を目ざしている人も、様々な立場で広い分野で活動している人、ボランティア・NPOについて学び合います。
ワークショップ形式でのアイディア出し、情報交換。

【NPOほん設立・運営相談会】（事前予約制）13:00～16:00
会場：3階・学習室1
これからNPOの法人を設立される方、既に設立し運営にお悩みの方を対象に、行政書士を中心とした会計税理士等が相談。

と き　平成23年2月20日(日)午前10時～午後3時

ところ　山梨県ボランティア・NPOセンター（全館オープンハウス）

主 催　ボランティア・NPOフォーラム2011実行委員会
特定非営利活動法人(NPO法人）山梨県ボランティア協会

本年のボランティア・NPOフォーラムに「かえでラグビースクール」が実践発表の場が与えられました。共に発表した「甲斐旅隊」「ステップアップ」とも10年、20年の活動をしている会の中に入れていただいた事に感激をしました。かえでの活動に多くの人に共感をしていただき、とても嬉しかった一日でした。

ボランティア団体が教室や活動内容紹介
甲府でNPOフォーラム

ボランティア・NPOフォーラム2011（同実行委主催）が20日、甲府市の県ボランティア・NPOセンターで開かれ、県内のボランティア団体の代表者らが活動を紹介した。

かえでラグビースクールの望月大樹代表は、障害がある子どもや不登校の児童生徒に声掛けて無償でラグビーを指導していることを紹介。青少年ボランティアサークル「甲斐縁隊」の笛吹高校2年生らは、福祉施設や支援学校での活動などについて語った。

山梨車いす生活者の会「ステップアップ」の小林修会長は、車いすの利用体験活動などに触れ、「健康の幸せを認識し、障害者福祉への理解を深めてもらう機会になっている」と話した。

このほか、ボランティア・NPO活動に関する相談会や手話教室もあった。

福祉ボランティアについて考えたフォーラム＝甲府市の県ボランティア・NPOセンター

風林火山

サッカーのヴァンフォーレ甲府（V甲府）がJ1復帰を決めた14日、御勅使南公園では全国高校ラグビー県予選の決勝が行われ、日川が聖地・花園への5年連続40回目の出場切符を獲得した▼ラグビー指導者の一人は「V甲府の躍進を喜びながらも、県内ラグビーの地盤沈下を心配する。『ラグビーをやれる選手になる素材が、脚光を浴びるサッカーにいってしまう』と嘆く▼リーグ戦のような小さな県にプロスポーツが存在し、ホームゲーム1万人を超える観客を集めるというのはまれな例だ。子どもたちはスタジアムで身近なプロ選手を応援し、いつかは自分も、と夢を描く▼サッカーの少年チームが増えるとは逆に、1991年に25チームが出場した高校ラグビー県予選は、V甲府が初のJ1昇格を決めた2005年には6チームにまで減った。全国ベスト8入りが過去15回、うち4強が8回を数える日川も、近年は2回戦どまりだ▼この指導者は「全国で勝つことで現状を打開してほしい」と願う。子どもたちが憧れるような花園での活躍だ。日川は昨年は2点差、一昨年は1点差での惜敗。今回は元旦を花園で迎え、七位一体で進出してもらいたい▼19年には日本でW杯が開かれる。体をぶつけ合って激しく戦い、試合が終われば敵も味方もなく友情を温める「ノーサイド」の精神を大事にするラグビー。その魅力は、サッカーに勝るとも劣らないと思うのだが…。